

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都港区東新橋1-9-1

為替週間展望 = ドル円は緩やかに上値を追う展開か

[7月3日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		6月26日～6月30日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	143.70	145.07(30)	142.94(26)	144.61	+0.91
ユーロ・ドル	1.0892	1.0977(27)	1.0857(30)	1.0864	-0.0030

=====

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	33,189.04	+407.50	日本10年債利回り	0.398	+0.029
ダウ平均株価	34,122.42	+394.99	米10年債利回り	3.838	+0.104

=====

<来週の主要経済統計等>

- 3日 日銀短観 (6月調査)
 - 豪5月住宅建設許可件数
 - 中国6月財新製造業PMI
 - スイス6月消費者物価指数
 - 独6月製造業PMI確報値、ユーロ圏6月製造業PMI確報値
 - 英6月製造業PMI確報値
 - 米6月製造業PMI確報値
 - 米6月ISM製造業景況指数、米5月建設支出
- 4日 豪中銀 (RBA) 政策金利
 - 独5月貿易収支
 - ※米国市場は独立記念日のため休場
- 5日 独6月サービス業PMI確報値、ユーロ圏6月サービス業PMI確報値
 - 英6月サービス業PMI確報値
 - ユーロ圏5月生産者物価指数
 - 米5月製造業受注
 - 米連邦公開市場委員会 (FOMC) 議事要旨 (6月13～14日開催分)
- 6日 豪5月貿易収支
 - 独5月製造業受注指数
 - ユーロ圏5月小売売上高
 - 米6月ADP雇用統計
 - カナダ5月貿易収支
 - 米5月貿易収支、米新規失業保険申請件数
 - 米6月サービス業PMI確報値
 - 米6月ISM非製造業景況指数、米雇用動態調査 (JOLTS) 求人件数
- 7日 日本5月勤労者世帯家計調査
 - 日本5月景気動向指数速報値
 - スイス6月雇用統計
 - 独5月鉱工業生産指数
 - 米6月雇用統計
 - カナダ6月雇用統計
 - カナダ6月Ivey購買部協会指数

【前回のレビュー】FRBによる利上げは継続される見通しながら、緩やかなペースでの利上げが見込まれる。一方で日銀による緩和姿勢の継続で円は売りに押されやすくとみられる。一段の円安進行は日本の金融当局によるドル売り円買い介入が警戒されて、急速な円売りを抑える要因となる。こうした中、ドル円はもみ合いながら緩やかに上昇

する展開になるとした。

【ドル円の堅調な流れは継続】

ドル円は上昇基調で推移している。米連邦準備制度理事会（FRB）が利上げ継続姿勢を示しており、日銀は緩和策を継続する中、金融政策に関するスタンスの差がドル買い円売りにつながっている。政府・日銀による介入警戒感根強いものの、上値を追う動きが継続している。

FRBだけでなく、欧州中央銀行（ECB）、英中銀（BOE）も高いインフレ率の影響で利上げが継続されることが見込まれており、ユーロ円やポンド円は上昇傾向が続いてきた。ただ、このところはユーロドル、ポンドドルは大きく上昇を続けてきた反動もあり、高値圏から軟化している。ユーロ円やポンド円は高値圏で伸び悩みを見せている。

6月28日に欧州中央銀行（ECB）が主催するECBフォーラムで、パウエルFRB議長、ラガルドECB総裁、ベイリーBOE総裁、植田日銀総裁が討論会を行った。パウエルFRB議長は「6月の会合では利上げを見送ったが、今後のペースはまだ決まっていない」「2会合連続での利上げもありうる」と述べた。また、パウエル議長自身は2回の追加利上げを想定していることを明らかにした。

植田日銀総裁は、「2024年も物価上昇が続くようなら、金融緩和策を変更する理由となる」「インフレ率は今年末にかけて輸入物価の低下を背景に低下する」などと述べた。ラガルドECB総裁は7月も利上げを続ける姿勢を示した。ベイリーBOE総裁は、インフレ率を2%に戻すために必要な対応を行う方針を示した。

各国中銀のトップがECBフォーラムで述べた内容に関しては、それほど目新しい内容は特になく、これまでに主張してきたことの繰り返しとなった。ただ、主要中銀のトップが一堂に会して、各国中銀と日銀のスタンスの差が明確になったことで、円は売られやすい展開となっている。

CME FEDウォッチでは、7月のFOMCでの政策金利の据え置き確率が13%前後、0.25%の利上げ確率は87%前後となっている。経済データ次第ながらも、市場では7月のFOMCでの利上げを予想する向きが多い。

7月第1週は米雇用統計をはじめとして、注目度の高い経済指標の発表が相次ぐ。米国では金利上昇の影響で景気減速やリセッション（景気後退）が警戒されているものの、このところの経済指標は良好なものも多くみられる。堅調な米経済指標が続くと、ドルのサポート要因となり、ドル円は底堅い推移を見せることとなろう。ドル円の一段の上昇局面では、日本の金融当局によるドル売り円買い介入が警戒される。そうした中、ドル円は介入を警戒しつつ、緩やかに上値を追う展開となりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、142.00～148.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、3日に日銀短観（6月調査）、米6月製造業PMI確報値、米6月ISM製造業景況指数、米5月建設支出、5日に米5月製造業受注、米連邦公開市場委員会（FOMC）議事録、6日に米6月ADP雇用統計、米5月貿易収支、米新規失業保険申請件数、米6月サービス業PMI確報値、米6月ISM非製造業景況指数、米雇用動態調査（JOLTS）求人件数、7日に日本5月勤労者世帯家計調査、日本5月景気動向指数速報値、米6月雇用統計などがある。

【ユーロドルは軟調な推移か】

ラガルド総裁は、ECBフォーラムで、「7月も利上げを継続する」意向を示した。さらに「ユーロ圏のインフレは賃金の上昇が要因で、労働市場が堅調だと賃金上昇は続く」「企業が労働コストを転嫁して、一段の物価上昇を招かないように金融引き締めが必要となる」「近い将来に政策金利がピークに達したと自信をもっていえる可能性は低い」などと述べた。

6月29日発表の6月の独消費者物価指数速報値は予想から上振れするなど、インフレ圧力が依然として強い。これがユーロ買いの動きにつながった。一方で、米国の経済

指標も堅調で相対的にドルが買われやすくなっている。こうした中、ユーロドルはもみ合いながら上値重く推移しており、軟調な推移が見込まれる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0600～1.0970ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、3日に豪5月住宅建設許可件数、中国6月財新製造業PMI、スイス6月消費者物価指数、独6月製造業PMI確報値、ユーロ圏6月製造業PMI確報値、英6月製造業PMI確報値、4日に豪中銀(RBA)政策金利、独5月貿易収支、5日に独6月サービス業PMI確報値、ユーロ圏6月サービス業PMI確報値、英6月サービス業PMI確報値、ユーロ圏5月生産者物価指数、6日に豪5月貿易収支、独5月製造業受注指数、ユーロ圏5月小売売上高、カナダ5月貿易収支、7日にスイス6月雇用統計、独5月鉱工業生産指数、カナダ6月雇用統計、カナダ6月IVEY購買部協会指数などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。